



世界農業遺産

にし阿波の傾斜地農耕システム

世界が認めた

# 「にし阿波の農業と暮らし」



Agriculture and living  
in Nishi-Awa



徳島剣山世界農業遺産推進協議会

# にし阿波の傾斜地農耕システムとは、



斜めで生きる知恵

「にし阿波」と呼ばれる徳島県西部の美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町には、標高100から900メートルの山間地域に200近くの集落が点在しています。いずれも急峻な傾斜地に位置し、場所によっては斜度40度にもおよびます。斜面を利用する農業では、段々畑のように平らな面を造成することが一般的ですが、これらの地域では傾斜地のまま農耕を行ってきました。そのために、独自の技

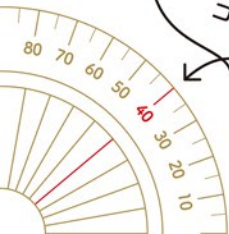
や知恵を培って、自然を守り、生命を守り、集落を守ってきたのです。この400年以上にわたり継承されてきた山村景観や食文化、そして農耕にまつわる伝統行事などの全てが「傾斜地農耕システム」です。

このシステムは、未来に向けても持続可能なものと認められ、食と農の危機的状況や生態系の破壊など世界が直面する問題解決にもつながるものと評価されました。

## 斜めの美

険しい山々と深い渓谷が織りなす斜面には、民家と畑が張り付くように立地し、世界でも珍しい独特のランドスケープを創り上げています。

斜度40度はココ!!



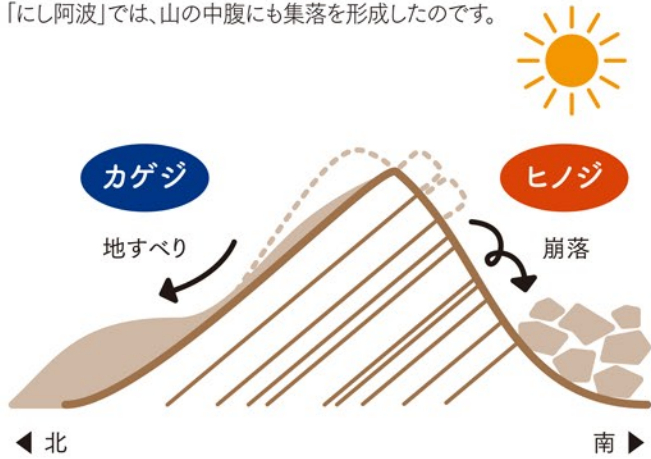
## カゲジとヒノジ

「傾斜地農耕システム」とは、傾斜地で生まれた農業の仕組みです。では、「にし阿波」の傾斜地は、どのようにして誕生したのでしょうか。

「にし阿波」一帯は、巨大なプレート(岩盤)がぶつかって生じる日本最大級の断層“中央構造線”の上に位置しています。この線上では、ダイナミックな断層運動が起こり、隆起または変形することで山が形成されます。

南からのプレート移動により、急激に押し上げられて山岳地帯が形成され、さらに破碎帯(緑色片岩)というもろい地質であったため、北向き斜面は地すべりが多く、傾斜は緩いが日当たりが悪い“カゲジ”となり、南向き斜面は崩落により、傾斜はきついが日当たりの良い“ヒノジ”となりました。この地すべりや崩落の跡地に人が住みついたのが集落の起源といわれています。

破碎帯は地下水を多く含むことで地すべりを誘発し、跡地にも水が豊富に残りました。山の中腹でありながら湧き水に恵まれた「にし阿波」では、山の中腹にも集落を形成したのです。

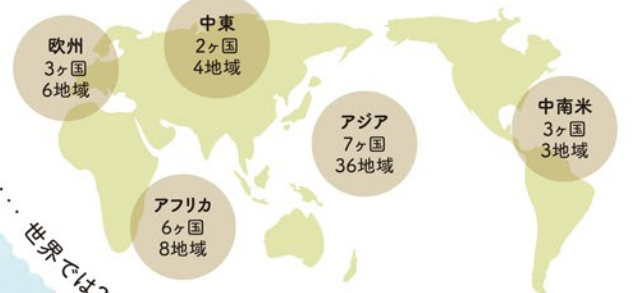


## 世界が認めた5つのポイント!



- 食と暮らしを支える**  
食糧および生計の保障に貢献するものであること
- 生物と植物の宝庫**  
世界的に重要な生物多様性および遺伝資源が豊富であること
- 伝統と自然を守る**  
伝統的な慣習や技術、天然資源などを維持するものであること
- 風土に根付いた文化**  
文化的独自性が風土や地域に定着、帰属していること
- 人と環境が調和した景観**  
長い年月を掛けて培ったランドスケープを有すること

## 日本は11地域が世界農業遺産に認定



世界では21ヶ国57地域が認定されています。(2018年12月現在)

### 《世界農業遺産認定地域》

- 新潟県佐渡市『トキと共生する佐渡の里山』(2011年6月認定)
- 石川県能登地域『能登の里山里海』(2011年6月認定)
- 静岡県掛川周辺地域『静岡の茶草場農業』(2013年5月認定)
- 熊本県阿蘇地域『阿蘇の草原の維持と持続的農業』(2013年5月認定)
- 大分県国東半島宇佐地域『クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環』(2013年11月認定)
- 岐阜県長良川上中流域『清流長良川の鮎 一里川における人と鮎のつながり』(2015年12月認定)
- 和歌山県みなべ・田辺地域『みなべ・田辺の梅システム』(2015年12月認定)
- 宮崎県高千穂郷・椎葉山地域『高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム』(2015年12月認定)
- 宮城県大崎地域『持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム』(2017年11月認定)
- 静岡県わさび栽培地域『静岡水わさびの伝統栽培 一発祥の地が伝える人とわさびの歴史』(2018年3月認定)
- 徳島県にし阿波地域『にし阿波の傾斜地農耕システム』(2018年3月認定)

# 五つの生きた世界農業遺産



## 食と暮らしを支える

山の土地で豊かな食生活に恵まれる技は、世界の食糧問題解決の知恵となる。

### 古代から続く雑穀文化

徳島県の古い呼び名である「阿波」の語源は、焼畑で栽培された「粟（アワ）」であるといわれるほど、この地の起源に深い関係がある雑穀文化。縄文時代からの歴史があるという雑穀生産は、稲作の伝来により多くの土地で影を潜めてしまいましたが、水田に適した土地が少ない「にし阿波」では、かつては焼畑農業などにより栽培され、現在でも日々の暮らしに役立てられています。



### 自給自足と物々交換

傾斜地では大規模農業は難しく、雑穀をはじめ少量多品目を栽培し、原則自給自足の暮らしを続けてきました。ヒノジとカゲジで栽培に適した農作物が変わるため、物々交換などを行い、お互いの食生活を豊かにしてきました。

現在では産直市などで販売し、地域外の人々にも急傾斜地の恵みを味わっていただくことで、暮らしに彩りを与えます。



### 「にし阿波ブランド」の特産品と旅

水はけの良い急傾斜地では、ゴウシュイモなどの農作物が収穫できるため、加工品を含めた「にし阿波ブランド」の特産品に注目が集まります。さらに、農家レストランや農

家民宿など、きびしい自然と共に生きる暮らしや食文化にふれる旅のプログラムが、

人々の感動を呼びます。





# 生物と植物の宝庫

「にし阿波」の暮らしには、遺伝資源を守る知恵がある。



## 貴重な遺伝資源を伝える

「にし阿波」の雑穀は、東アフリカで食用とされるシコクビエなど40系統にも上ります。ソバやトウキビ、果樹や自家製のお茶、伝統野菜など、多様な在来品種が日々の食生活を支えます。

この地では雑穀や野菜の原種に近い種子が、それぞれの農家で採種保存されてきました。これらの種は、一度途絶えると復活は難しいとされています。そこで、貴重な遺伝資源を継承するために、祖谷雑穀生産組合が設立されました。



## 人の手で守られてきた生物多様性



カヤを採取するための“カヤ場”には、希少なシコクフクジュソウをはじめとした282種類の植物が確認されています。また、ハイタカなどの希少種をはじめ28種の鳥類、絶滅危惧種

を含む241種もの昆虫、哺乳類9種が生息しています。

カヤを定期的に刈り取ることで、背の低い植物にも日光がよく当たり、多様な植物が生育する環境が整えられています。また、鳥たちは獲物を見つけやすくなり、貴重な生態系が守られています。自然環境に人の手が入ることで、生物多様性が保たれてきたのです。



# 伝統と自然を守る

土壌環境を改善する技は、世界の山村農業を救う知恵となる。

## コエグロ

「にし阿波の傾斜地農耕システム」を象徴するものの一つは“コエグロ”です。刈り取ったカヤを円錐形に積み上げて乾燥させ、細かく刻んで畑に入れることで、土の肥やしとなり、土砂の流失を防ぎます。雑草を抑え、冬の寒さや夏の暑さを和らげ、乾燥を防ぐ効果もあります。

カヤとは、ススキやチガヤなどを指す言葉で、かつての農村には“カヤ場”と呼ばれる採草地があり、家畜のエサ(ハゴ)や田畑の肥料(コエ)に使い、かやぶき屋根にも使用しました。「にし阿波」には、今も“カヤ場”があり、農耕に使用しています。



## 野鍛冶が作る伝統農具

傾斜地で農業を営むためには、特別の技を有します。乾いたカヤを細かく刻み畑に敷き込み、土の流失も抑えます。下がった土は、“サラエ”という伝統の農具を使い下から上へ土を戻す“土上げ”を行います。畑には礫と呼ばれる小石が多く見られるため、砕いて土を作る独特の農具を使います。これらの道具は、市販されているものではありません。傾斜地の角度に合わせた農具を“鍛冶屋”と呼ばれる集落の野鍛冶がオーダーメイドで作ってきました。





# 風土に根付いた文化

「にし阿波」の伝統文化は、山村における原風景や農村文化を残す知恵となる。

## 保存食文化と郷土料理

食物に限られる山間部では、収穫した農産物を天日に干すことで滋味豊かな保存食にしてきました。例えば、家の周りに設けられた“ハデ”と呼ばれるはしご状のものや軒下



につるして乾かします。剣山から吹き下ろす冬場の風は干物づくりに適しており、干し芋や干し柿など山村の特産品を生み出します。

イモ類を貯蔵するのは、納屋などの床下に掘った深さ2mほどの穴で

“イモ穴”や“イモ壺”<sup>つぼ</sup>と呼ばれています。ゴウシュイモやサツマイモを保存し、ワラやモミガラで温度や湿度を一定に保ち、種芋の保存にも役立てられています。そば米雑炊や雑穀を利用した餅やゴウシュイモ

を使う“でこまわし”など、素朴な郷土料理も伝えられてきました。



## 伝統行事

忙しい農作業の合間の娯楽としても、伝統行事が大切に受け継がれてきました。国指定の重要無形民俗文化財に登録された「西祖谷の神代踊」の起源は、千年以上前の平安時代初期にさかのぼるといわれています。各地で影を潜めた「お亥の子さん」などの農業祭事も子供たちに引き継がれています。きびしい仕事の中から生まれた作業唄も多く伝わり、山や谷に向かって歌う人々の声は磨かれ歌自慢も少なくありません。中でも祖谷の粉ひき節は、地元で全国大会が開催されるほどです。

集落の情報交換や相互扶助のシンボルである「お堂」も各地区にあり、今でも護摩たきや大師講、数珠回しなどが行われています。



# 人と環境が調和した景観

「にし阿波」の農耕生活の技は、人と自然の共生を模索する知恵となる。

桃源郷と称される斜面に暮らす人々



傾斜地に広がる真っ白なソバ畑

「にし阿波」の風物詩「コエグロ」



傾斜地で農耕生活を送ることで「にし阿波」ならではの景観が生まれました。人と自然が共生する悠久の歴史を秘めた風景です。

# にし阿波 MAP・ACCESS

「にし阿波」とは、徳島県西部に位置する美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町の2市2町からなるエリアを指します。  
 徳島県の3分の1の面積を有し、西日本第2位の高峰「剣山」がそびえ、日本三大暴れ川の一つである「吉野川」が流れています。  
 貴重な農業遺産はもとより、日本三奇橋の一つである国重要文化財「祖谷のかずら橋」、  
 美しい明治の町並みが広がる「うだつの町並み」など、日本の豊かな原風景が今なお残されています。



## …にし阿波… (徳島県2市2町)



**【徳島剣山世界農業遺産推進協議会 事務局】**  
 つるぎ町役場 商工観光課(平日8:30~17:15)  
 〒779-4101 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1番地3  
 TEL:0883-62-3111(代) FAX:0883-62-4944  
 E-mail:syoukou@tsurugi.i-tokushima.jp  
<https://giahs-tokushima.jp>



**《美馬市》**  
 〒777-8577 徳島県美馬市穴吹町穴吹字九反地5番地  
 TEL:0883-52-1212(代) FAX:0883-53-9919

**《三好市》**  
 〒778-8501 徳島県三好市池田町シンマチ1500番地2  
 TEL:0883-72-7600(代) FAX:0883-72-7203

**《東みよし町》**  
 〒779-4795 徳島県三好郡東みよし町加茂3360  
 TEL:0883-82-6303(代) FAX:0883-76-1010(総務課)



にし阿波への行き方	にし阿波のまわり方
高松空港、徳島空港、高知空港から車で約60~70分で徳島県西部のにし阿波エリアへ。列車で向かう場合は、目的の集落までJR穴吹駅、貞光駅、阿波池田駅、大歩危駅などからタクシー移動が便利。	にし阿波エリアの山道はクネクネしていて、観光スポット間の距離も長い。集落をいくつか訪れたいなら、現地での移動には30分単位で借りられる観光タクシーが安心。コースや時間は、事前に地元タクシー会社に相談を。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平30情使、第1383号)

# ジ ア ス 世界農業遺産 GIAHS

〈 Globally Important Agricultural Heritage Systems 〉

「世界農業遺産」とは、伝統的な農林水産業を営む地域の中で世界的に重要と認められる地域を、  
国連食糧農業機関(FAO)が認定する制度。

対象は、伝統的な農林水産業とそれを取り巻く人、文化、食、景観などの全てを含む“農林水産業システム”で、  
時代や環境の変化に適応させながら、「生きた遺産」として保全します。

世界で21ヶ国57地域、日本では11地域が登録されています。

(2018年12月現在)

「にし阿波の傾斜地農耕システム」は、  
中四国で初めて「世界農業遺産」に認定されました。  
(2018年3月認定)



## 世界農業遺産 にし阿波の傾斜地農耕システム ログマークコンセプト

古代からにし阿波の食糧自給に大きく貢献してきた雑穀を中央に配置し、傾斜地農耕システムを象徴する傾斜のある畑、肥料として使うコエグロ、自然と調和した景観を表しています。環境にやさしく持続可能な農法と集落での暮らしがこれからも末長く続くようにとの願いが込められています。